

平成 22 年第 1 回（3 月）定例会一般質問

No.1

質問者	質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者
23番 首藤正光	1. 子ども手当について	(1) 給食費の未納者は、手当より天引きはできないか。	市長
	2. 豊後大野市職員懲戒審査委員会について	(1) 民間より委員に任命はできないか。	市長
19番 宮成昭義	1. 組織機構について	(1) 行政区再編の進捗状況は。	市長
	2. 21年度事業について	(1) 46の新規事業が企画、実施された中で、畜産物生産性向上対策事業、豊のしゃも処理施設整備事業、自給飼料確保向上対策事業の実施状況は。	市長
	3. 第2期行政改革集中改革プランについて	(1) 21年度策定とのことであるが、その策定の考え方及び進捗状況は。	市長
4番 衛藤竜哉	1. 市の観光・ツーリズム これからの展望は	(1) 観光は近年、点から線へさらに面への広がりを見せていると言われています。 また、県内はもちろん隣県との連携による広域的な活動に発展しているところです。 先般、大分県が発表した4つの観光圏（認定、認定に向け準備中も含め）が取り組みを始めている中で、豊後大野市だけ空白になっていました。 このことに市として、どのような考えか伺います。 さらに、観光協会・商工会との連携した市の商工観光の目指す方向はどこなのか具体的に伺います。	市長
	2. 安心な市への対策は	(1) 最近、県内各地で人身をも巻き込む火災が多発しています。 別府市光町の大火災は記憶にまだ新しいと思います。 大分市、県北地域、また県外でも主に高齢者の方が巻き込まれるという痛ましい火災が発生しています。 こうした被災した地域や、ほかの集落で高齢者を中心に防災の意識向上を目的にいろんな訓練など取り組んでいる報道がされています。 市内でも、大火災が起きる恐れがないとは言いきれません。 さらに住民意識の確認のために、自治区を中心に取り組めることがあるのではと思うのですが、考えを伺います。	市長

平成 22 年第 1 回（3 月）定例会一般質問

No.2

質問者	質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者
7 番 小野順一	1. 地籍調査について	(1) 地籍調査の進捗状況について伺う。 (2) 今後の調査計画と併せて「山林(土地)を市へ寄付したい」との希望の受け皿整備はできないか伺う。	市長
	2. 地域の交通手段について	(1) 過疎・高齢化が進む地域において、高齢者の運転免許証の返納者が出つつある中、交通手段の確保は急務と思われるが、対応策について伺う。	市長
1 番 神志那文寛	1. 地域公共交通総合連携計画策定の進捗状況は。	(1) 実態調査・意識調査の結果と特徴は。 (2) この計画と、公共交通実証運行事業（犬飼駅から三重病院を經由して公立おがた総合病院に至る路線）とのかわりは。 (3) 新たな公共交通網の構築に際しては、「地方をさびれさせない」という観点で、料金は定額で安い金額にしていきたい。	市長
	2. 第 2 期行政改革集中改革プランについて	(1) 「第 2 期プランの役割」に、「『選択と集中』による行政改革の推進」とある。 「選択と集中」の内容と優先順位は。 (2) 保育の民営化で、良質な保育を担保できるか。	市長
	3. 「人権を学ぶ子ども会」のあり方は。	(1) 「従来の解放子ども会のあり方を根本的に見直す」とのことであるが、その理由は。 (2) 内容は、どのように変わるのか。 (3) 運営は、これまでは誰に委託してきたか。 今後は誰に委託するのか。	市長
	4. 本市の農業の将来像は。	(1) 基幹産業としての位置づけにふさわしい農業のあり方は、どのようなものを考えているか。 特に新規担い手の生活はどうなっていくのか。 将来像は。 (2) 「有機農業推進協議会(仮称)」の内容と構成は。	市長
	5. 高すぎて払えない国保税の引き下げを。	(1) 条例の改正で「資産割」を廃止し「所得割」で補うことにより、増税となる世帯数、減税となる世帯数は。 またその所得別分布は。 (2) 基金を活用して、低所得者に、より重い負担となっている「均等割」「平等割」を引き下げよ。 (3) 国庫負担の増額を国に要請せよ。	市長

平成 22 年第 1 回（3 月）定例会一般質問

No.3

質問者	質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者
14番 赤嶺謙二	1. JR 三重町駅周辺の整備について	(1) 通勤・通学の利用者と駅周辺の人々を中心に、整備を望む声が多い。 以下の点について、市の考え方を質す。 ① 駐車場の確保 ② 駐輪場の確保 ③ バスの乗り入れ ④ トイレの美化 ⑤ モニュメントの設置 ⑥ 交通量増による危険防止対策	市長
3 番 和田哲治	1. 「議会での要望事項」、その後の経過と検証について。	(1) 昨年の第 2 回定例会（6 月）において、過疎地域や限界集落に対する「行政の今できる支援策」の要望について、市長から「集落支援員の配置を検討する。」との答弁であったが、どう検討されてきているのか。 その後の経過を伺う。 (2) 農業従事者の高齢化が著しく進む中、農業労働災害共済制度として「新たな労災保険特別加入事業を、新年度当初には運営したい。」との答弁をいただいたが、どう検証されてきたのか。 その後の経過を伺う。	市長
	2. 各種市民団体や民間ボランティア団体などが、気軽に使える「福祉・研修車両」の配置について。	(1) 各地域で、これまで育成されてきた「いきいきサロン」や「老人クラブ」など、各団体とも運営が低迷する中、これまでの活動範囲を広げた事業の研鑽や、組織の活性化を図るための交流会への参加など、これらの自主団体が気軽に利用できる「福祉・研修車(仮称)」の配置ができないかを問う。	市長
8 番 恵藤千代子	1. 自らの交通手段を確保できない方への支援策について	(1) 22年度に地域公共交通総合連携計画を策定することになっている。 進捗状況と今後の取り組みは。 (2) 平成21年10月1日から高齢者の運転免許自主返納支援制度がスタートした。 交通事故防止・心理的不安解消のために返納しやすい環境づくりを進める必要があると思う。 市の考えは。 (3) 障がいを持っている方の生活を支えるために、タクシー料金の助成を検討できないか。（県内 8 市が実施） (4) 周辺部の生活対策として、食品・日用品の移動販売車の走行を支援する事業に取り組めないか。	市長

平成 2 2 年第 1 回（3 月）定例会一般質問

No.4

質問者	質 問 事 項	質 問 の 趣 旨	答 弁 者
11番 佐藤徳宣	1. 豊後大野市行政区再編について	(1) 平成18年度から行政区再編にあたっては、推進計画を提案し、市民と行政が共通認識の中で取り組んできたが、その後の進捗状況について伺う。 (2) 地域によって進捗状況に温度差があるとすれば、何が原因で進まないのか、分析結果を公表してもらいたい。 (3) 行政区再編でコストがどれだけ圧縮できるのか、具体的に数字で示してほしい。 (4) 第2次豊後大野市行政区再編計画ができているよであるが、市の今後の方針を問う。	市 長
	2. 地域資源としての農業用水を活用した小水力発電開発について	(1) 地球温暖化対策では、CO₂の削減が急務となっているが、化石燃料に代わるエネルギー源として小水力発電が考えられるが、市としての考えを伺う。 (2) 小水力発電所建設に関する助成制度はどういうものがあるのか。 (3) 国でもモデル事業として全国に3ヵ所選定し、大分県竹田市に国費で事業規模 5,000万円の小水力発電を建設する。 全国的に相当数事業を開始しているが、市内にも多くの土地改良区があり、既に発電所も4ヵ所くらいあると思うが、市として推進してはどうか伺う。	市 長
	3. 予算の事業仕分けについて	(1) 地域活性化・きめ細やかな臨時交付金については、各町に振り分けてみると、市内全域で使うものを除いて、概ね2パーセントから13パーセントまでである。 また、地域に振り分ける予算編成について、公平公正でなければいけないと思うが、その査定等について市民に公表できないか。 (2) 市民の要望を聞く陳情・請願等について伺う。	市 長